

職員課長交渉を 行いました

(保育園)

どろんこ

2021年9月2日(木)

659号

船橋市職労福祉支部

発行責任者 村上はつみ



8月24日(火) 18時から、市役所705会議室に於いて、保育園の人員問題についての職員課長交渉を行いました。

特に、現在の欠員の状況から、保育園ではどのように大変な状況になっているかを理解してもらい、速やかに欠員の補充をしてもらうために行いました。



コロナによる緊急事態宣言下のため、職場からの参加はなく、役員と組合中央執行委員9名での参加となりました。

職員課に、まずは保育園の細かいことを理解してもらわないと、大変な状況がなぜか分からないのではないかと、配置基準や、2015年に新制度になってから変わったこと(支援児も長時間の保育を受ける子が増えた)、コロナの流行で変わったこと(時間外も、できるだけクラスをまとめないようにしている)、以前「非常勤時間外職員」と言われた人の減少による問題点(土曜日鍵を持てる人の減少、土曜日の時間外保育職員の減少等)、子育て世代の職員の離職があることから、子育てしながらでも働きやすい職場環境の必要性を伝えました。

職員課でも、承知している内容と、確認できていない内容もあり、保育園の状況については理解してもらえたと感じました。

職員課によると、やはり、年度途中の採用人数は少なく、今年度途中採用保育士は4人だけです。



職員課としても、年度途中の採用が大変難しいことを感じていて、4月に、会計年度任用職員の前倒しをいかにたくさんおけるかが重要と考えていることは、組合と同意見でした。

ただ、今年度も前倒しは11人と少なく、待機児童解消に充て

られているために、産休・育休代替や年度途中の支援児認定に係る要員分などまでまわりません。特に、産休代替については、代替職員採用までに少し時間があり、また、期日が決まっていること、毎年、年度途中から代替が来なくなり、何年も我慢していること、その頑張りが限界になっていることから、きちんと配置して欲しいと伝えました。

保育サポーターについては、今年度途中の採用が19人。欠員の人数だけでなく、土曜日の時間外保育者がいるかいないか、長期にわたり時間外保育者がいない園等、必要度の高い園への配置をお願いし、「確認して希望に添えるようにしていく」との回答をもらいました。

保育サポーターの勤務地の希望が、自宅に近い・通勤しやすい園が多いとのことなので、各園で募集ポスターが貼れるようにしやすいものを作ってもらうことも提案しました。



第48回 保育のつどい 2021

感想

・ズーム研修については、家で気軽に参加できて良かった。録画配信もするとのこと、見られなかったところや見逃したところももう一度見られるのがよい。

○今井和子さんの研修を受けて

- ・同じような研修を何度か聞いているが、何度聞いてもその時心に響く言葉ある。また、再確認できて良かった。
- ・保育の現場を想像しながら研修に参加できた。
- ・自分の保育を見直すきっかけになった。
- ・日々の保育の中で、意識して子どもと関わったり、声かけをしたりしていきたい。
- ・「自分は受け入れてもらえる！」という思い、自己肯定感の大切さを改めて感じた。
- ・「否定的な言葉が出るのは、心が否定的になっている」ということを聞き、心に寄り添い、尊重しながら、より自己肯定感が育つよう声かけを心がけたい。
- ・乱暴をしてしまう子ども、その裏側に思いがあることを知り、子どもの乱暴に対する考え方を見直す良い話が聞けた。
- ・どの年齢・月齢でも発するメッセージがあり、受けとめる側が見逃さないことが大切。受け取ってもらえた心地よさが自己肯定感に繋がる大きな役割をしていることをたくさんの人が気づけるとよい。
- ・「怒る」と「叱る」は全く違うもの。「どうしてあなたは〇〇なの？」とあなた言葉になっていたが、「私は〇〇と思う」という「Iメッセージ」を意識したい。
- ・事例などもあり、わかりやすかった。実際、講座後から2週間程、意識して声かけをしたら、子どもにも変化が見られてきました！
- ・このような研修を無料で（組合が参加費を全額補助しています）受けられて感謝です。

○荒牧光子さんの研修を受けて

- ・自分も楽しみながら受けました。子どもと遊ぶのが楽しみです。
- ・1つ1つ作りきることが出来て楽しかったです。

